

	第 2 回会議での主な意見	対応・見解
1	旅館側から護岸際で釣りをする場合があるが、資料 2 の P. 3 右上の復旧方法では、藻場が造成される水深はどの程度か。また、景観の観点で、浅場付近にブイが設置されるか。	捨石設置の厚さは 1 m 程度の想定だが、各場所の水深によって藻場が造成される水深も異なる。また、ブイは設置しない予定。
2	護岸復旧の工期が非常に大事。耐久性の高い護岸を早期復旧できる方法でお願いしたい。	各旅館等のご意向や早期護岸復旧の観点を踏まえ、護岸復旧方針（案）を作成した。
3	藻場を造成しても、将来被災したら藻場がなくなることにならないよう、最初の造成段階から連携したい。	藻場を造成する場合の具体的な方法は、関係者と連携して検討する。
4	資料 2 の P. 3 右上の復旧方法で、捨石の設置範囲は、小さい方が良いが、どの程度か。	今後、詳細検討を行い、各旅館等と調整する。
5	資料 2 の P. 3 右上の復旧方法は、他の方法より工期が短い分費用は高いのか。	他の方法と比べ、短期間・低費用と想定している。
6	隣接する区間で異なる復旧方法ではなく、同じ方法で一連で施工する方が復旧しやすいという認識なので、双方に合わせ同じ方法に変更する。	各旅館等のご意向等を踏まえ、護岸復旧方針（案）を作成した。
7	修繕工事を進めることで早期の営業再開を目指し、それが和倉温泉全体の復興につながることを期待している。また、営業再開時の参考として具体的な工事内容をご提供いただきたい。	今後、詳細検討を行った上で、旅館の営業再開時の参考となるよう、適時適切に各旅館に対して復旧工事の内容を提供する。

前回会議での主な意見への対応等②

	第2回会議での主な意見	対応・見解
8	可能な旅館は早期再開が望ましいが、まちづくりの観点では安全性の確保も重要であり、必ずしも早期再開が良い訳ではない。復旧・復興には一定期間が必要なため、復興支援のため復旧期間中でも観光客が訪れるよう工夫が必要ではないか。	和倉温泉全体の早期復旧・復興のため、必要に応じて、各旅館での工夫などにもご協力いただきたい。
9	資料2のP. 3右上の復旧方法で、仮設道路の設置から護岸復旧までの期間はどの程度か。護岸全体の復旧が完了するまで仮設道路は設置されているのか。	仮設道路の設置期間は、旅館及び護岸の復旧スケジュールを踏まえ、今後検討・調整する。
10	資料2のP. 3右上の復旧方法で、水深が浅い箇所では捨石が高くなると思うが、捨石投入時の土砂の舞い上がりを考えると設置範囲は小さい方がよい。	復旧工事の実施に当たっては、可能な限り環境に配慮する。
11	和倉温泉全体が早く復旧・復興できるよう、各旅館で工夫して協力していくことが必要。	和倉温泉全体の早期復旧・復興のため、必要に応じて、各旅館での工夫などにもご協力いただきたい。
12	国・県・市が同じ方法で、護岸全体の復旧を行うのか。	全体として、同じ原位置での復旧を行う、護岸復旧方針（案）となっている。